郷土ちがさき

なじみ深かったダイクマ（その後ヤマダ電機）の建物が取り壊された。
その跡がぽっかりと空いた。間もなく新しいビルが建つ。
画面右手は、国道一号沿いのマンション。中央は茅ヶ崎トラストビル、その向こうにJAさがみの看板が見える。画面左手はイトーヨーカドー茅ヶ崎店、見えてはいないが茅ヶ崎駅。神奈中バス車中から撮影。　Photo 芹澤七十郎

第146号
発行　令和元年9月1日
発行者　茅ヶ崎郷土会
会長　平野文明
編集責任　平野文明

六月一日の線香焚き　文化資料館学芸員　松隈雄大……2
相模川・道志川の渡し場十二景　平野文明……4
特集第二弾　私のふるさと　羽切信夫・日下景子
小川裕暉・長谷川由美……12
風（自由投稿欄）　令和元年浜降祭　前田照勝……18
史跡・文化財めぐり報告　山本俊雄……19

「自分の良いところを理解している人は元気に楽しく毎日を送る」と何かで読んだことがあります。あるいは夢の中で聞いた言葉だったのか。

もう、今まで生きてきたほど生きることはないので、今を元気に楽しく過ごせるなら、それはその方が良いです。

自分の良いところは何だろう。

一つ目。何でもパクパク食べること。ことに細かく粉砕してあると大好物です。

二つ目。仲間づきあいが良いこと。どんなに大勢の仲間と一緒であっても協調精神は抜群です。ときに、「群れている」と馬鹿にされることもありますが。

三つ目。ほとんど不平不満を言わない事。住んでいる世界が狭くても、住めば都と達観しています。

四つ目。これは良いところではなく自慢点かも知れませんが、朱色の肌の色つやがいいこと。自慢点は自信点につながります。

と、いろいろ数え上げていたら、ウチのかみさんが「誰か訪ねてきたわよ！　起きて。」と言っている。

アッ、緋メダカになって涼しく泳いでいる夢を見ていました。

F・HIRANO

六月一日の「線香焚き」についての覚え書き

茅ヶ崎市文化資料館学芸員　松隈雄大

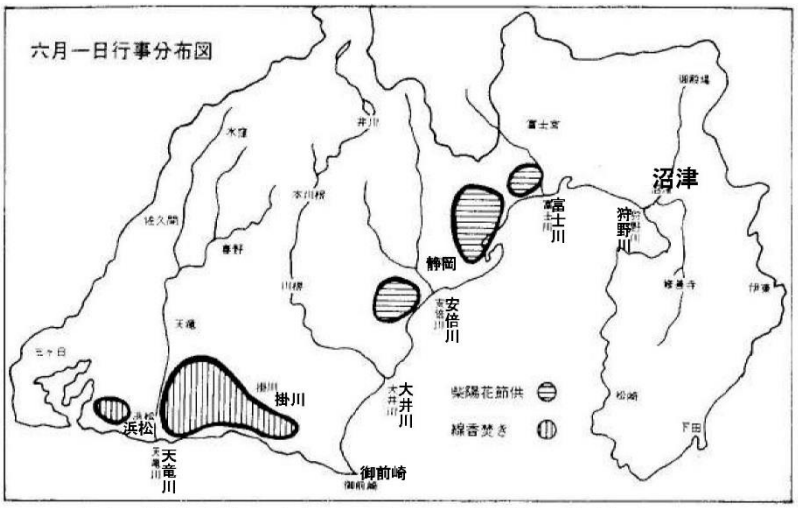
南湖に伝わる年中行事に、一把線香という行事がある。一九七七年の平野文明氏の報告（「茅ヶ崎南湖の一把線香」『民俗』第九三号　相模民俗学会　一九七七）によると、当時、南湖の四、五軒の家では、その家のお婆さんにあたる人が、六月一日の日の出頃に門口にヤツデの葉を敷いて海の砂を盛り、そこに火のついた一束の線香を立て、太陽に向かって家内安全や流行病除けを祈願していたという。

同様の行事は鎌倉市腰越でも伝承されている。大藤ゆき氏の報告（大藤ゆき「腰越の一束線香」『民俗』第九五号　相模民俗学会　一九七七）によれば、行事の内容は南湖と同じだが、腰越では一把線香とは称さず、明治時代の半ば頃にコレラが流行して町全体が全滅したことがあり、それから行うようになったという。

右のような六月一日に門口で線香を焚く行事を、本稿では「線香焚き」と総称する。管見の限りで南湖と腰越以外の事例報告は確認できず、神奈川県内では大変珍しい民俗であるといえる。

しかし最近、筆者は富山昭氏の論考（富山昭「静岡県の六月一日行事―「紫陽花節供と線香焚き」の考察―」『静岡県民俗学会誌』一〇号　静岡県民俗学会　一九八八）を読み、遠く離れた静岡県中西部でも線香焚きが伝承されていることを知った。

富山氏によると、旧富士川町・旧由比町・旧清水市・焼津市・旧岡部町・藤枝市・袋井市といった静岡県中西部地域では、六月一日にアジサイの花を家の戸口や門口、神仏に供える風習があるという。富士川や清水ではこれをアジサイ節供と称し、焼津・岡部・藤枝以外の地域では同時に戸口や門口で線香を焚くという。富山氏は、アジサイ節供に線香焚きが付随する事例が目立つ点に



富山「静岡県の六月一日行事」所載の分布図

（『静岡県民俗学会誌』10号5頁から転載）

注目し、アジサイ節供の主体が線香焚きにあったと推測している。さらに、袋井市・旧大須賀町・旧福田町・旧竜洋町・磐田市・旧豊田町・旧浜北市・旧舞阪町・旧新居町といった西部地域では線香炊きが独立して伝承されており、これらの地域では線香炊きを夏に向けての悪病除けと意識し、イチジクの葉を敷いた上で線香を焚くという。また、線香焚きの日を「お富士さん」と称したり、線香を富士山に供える、線香を焚くときに富士山の方を向いて拝むとよいとする地域があるという。

神奈川県の線香焚きと比較すると、ヤツデに対してイチジクを用いること（福田ではヤツデを用いている）、葉の上に砂を盛らない、富士山を意識しているなどの違いはあるが、病除けを目的とする点は共通している。

富山氏は、静岡県の線香焚きは、各地域において旧家などの一部の家や、町場の人々が行う行事であると意識されており、市町村単位では東海道沿線地帯に分布していると指摘している。そして限定的な分布の理由を富士信仰の影響と考察している。旧暦六月一日は富士山の山開きの日であり、かつては富士講信者を中心とする富士参詣が盛んに行われた。

若月紫蘭の『東京年中行事』などの江戸期の風俗を記録した文献には、江戸では旧暦六月一日に家々の戸口で線香を一把焚いて、富士山の浅間神社に捧げる風習があったと記されており、富山氏は静岡県の線香焚きと江戸の線香焚きの双方で富士山が意識されていることから、両者が同質の伝承であり、富士信仰の伝播の影響によるものと結論づけている。ちなみに愛知県にもイチジクの葉を用いて線香焚きを行い、病除けを祈願する事例があるという。

富山氏の論考によって、神奈川県内の特殊な行事と思われた線香焚きが、静岡県や愛知県にも事例のある分布の広い民俗であることが明らかとなった。伝承や分布圏の成立に富士信仰や東海道が関係したか否かについては、今後事例を収集して検討する必要があるが、線香焚きの民俗の研究を通して、茅ヶ崎における南湖の地域性を明らかにできるのではと考えている。現在も南湖で一把線香が伝承されているかは未確認だが、現在も行っているお宅や、実際に見聞きしたことのある方がいらっしゃれば、お話を伺ってみたいところである。

茅ヶ崎郷土会 史跡めぐりのためのノート

相模川・道志川の渡し場、十二景

―『新編相模国風土記稿』から―

平野文明

はじめに

茅ヶ崎郷土会の史跡めぐりで、戸田の渡し跡（海老名市門沢橋と厚木市戸田間）を二〇一九年九月に訪ねる計画が設けられた。

この事に関連して、江戸時代の相模川の渡し場を『新編相模国風土記稿』に依って調べ始めたのだが、なかなか面倒な作業になった。ご承知のように、『風土記稿』の記載は郡ごとになされている。相模川の流路を河口から北へたどると、川の東側に高座郡が南北に延びており、その西側に大住郡、愛甲郡があり、高座・愛甲の北西部は津久井郡になる。相模川は津久井郡では郡内を流れるが、その下流は郡境を流れる。そこで、川を挟んだ両岸の村は別の郡に位置するから、一つの渡し場を結ぶ両岸の村を探すには、あっちを見たりこっちを探したりしなければならない。どうせ探すのなら、これらの村を渡し場ごとにまとめてみよう。そうすれば今後の参考にもなろうと思ったのである。

渡し場はそこにかかる街道のためのものであるから、街道名も書き抜いておいた。今後、渡し場と、街道の歴史的背景を重ね合わせてとらえてみようと思うからである。

『風土記稿』は、郡ごとに、まず絵図を掲げ（図説）、その中に渡津（としん、渡し場）を記載し、次いで郡内各村の記述を行っている。この小文では、この配置をバラして、渡し場ごとに図説中の渡津を転記し、川を挟む両村の記載を写した。

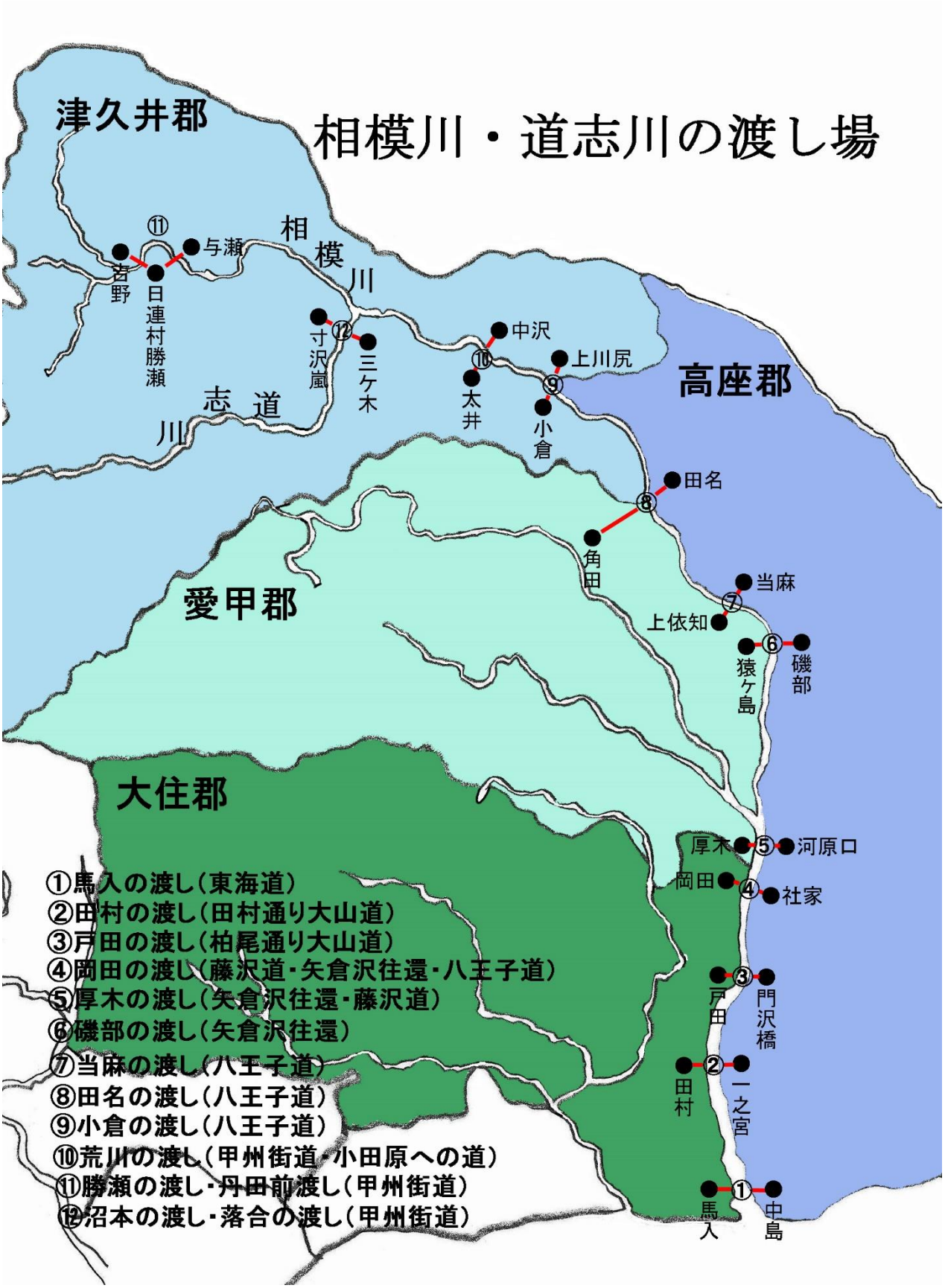
転記するにあたって次のように変更した。

「（　）」は筆者が加えた注。「〈　〉」は『風土記稿』の文中にある割り注。『風土記稿』は「渡」とするが、「渡し」とした。句読点は適宜変更した。注目すべき用語はゴシック体にした。旧漢字は新漢字にした

①馬入の渡し

雄山閣版『新編相模国風土記稿』（以下書名は省略し巻数と頁数を書く）巻之四十二　村里部　大住郡巻之一　図説（二巻三四一頁）に、

「渡津四　一つは**馬入の渡し**と呼び、**馬入村**（大住郡、平塚市）より対岸高座郡**中島村**（茅ヶ崎市）に達す。東海道官路の係る所なり〈事は馬入村に詳載す〉」とある。


相模川・道志川の渡し場
津久井郡
高座郡
愛甲郡
大住郡
相模川
志道川
⑪
与瀬
吉野
日連村勝瀬
⑫
寸沢嵐
三ケ木
⑩
中沢
太井
⑨
上川尻
小倉
⑧
田名
角田
⑦
当麻
上依知
⑥
猿ケ島
磯部
⑤
厚木
河原口
④
岡田
社家
③
戸田
門沢橋
②
田村
一之宮
①
馬入
中島
①馬入の渡し（東海道）
②田村の渡し（田村通り大山道）
③戸田の渡し（柏尾通り大山道）
④岡田の渡し（藤沢道・矢倉沢往還・八王子道）
⑤厚木の渡し（矢倉沢往還・藤沢道）
⑥磯部の渡し（矢倉沢往還）
⑦当麻の渡し（八王子道）
⑧田名の渡し（八王子道）
⑨小倉の渡し（八王子道）
⑩荒川の渡し（甲州街道・小田原への道）
⑪勝瀬の渡し・丹田前渡し（甲州街道）
⑫沼本の渡し・落合の渡し（甲州街道）

大住郡**馬入村**（二巻三五三頁）に、

「東海道往還、村南を東西に貫く。〈道幅三間あまり〉―略―」、続けて三五五頁に、

「相模川　村の中ほどを流る。〈幅七十間あまり〉当村にては馬入〈【豆相記】馬生に作る〉川とも唱う。―略―」、また三五六頁から、

「渡船場　相模川にあり、東海道の往還にて、**馬入渡し**と唱う。〈渡幅七十間、これ平水のときなり〉。常は船六艘〈渡船三、平田船二、御召船と称する一を置く、但し一艘には水主三人宛なり。これは当村及び定助郷の村より出す。その村々は高座郡萩園、下町屋、今宿、松尾村等なり、また郡中須賀村、高座郡柳島村も定掛りにして、渡船二艘を出せり〉を置き往来を渡す。けだし通行多き時は助郷の村々〈高座郡田端、一之宮、門沢橋、中新田、河原口など五村、当郡戸田、大神、田村三村、愛甲郡厚木村、鎌倉郡材木座、坂之下二村などなり。ただし大神、田村の両村は五年ずつ相替えて勤むという〉より、若干の船を出せり。当所渡守へ二十石の畑地〈七町六畝五歩〉を賜い、また寛文年中（一六六一～七三）より船頭などに月棒十口を賜う。川会所一宇あり〈川年寄と称し渡船のことに与る者、ここに在りてその指揮をなす。〉」とある。

三五六頁に渡し場の図がある。

なお、**中島村**（高座郡、茅ヶ崎市）の項（三巻二八三頁）には渡し場の記事はなく、「状部屋」のことが、次のように記載されている。

「東海道村内を貫けり。海道の傍らに状部屋と号する所を置く。官辺及び尾紀二侯をはじめ書状往来のとき、相模川水溢に逢わばこのところに止置きて村民などこれを守る。これ当村馬入渡りの東岸にあるをもってなり。」

②田村の渡し

大住郡の図説（二巻三四一頁）に、

「**田村の渡し**と称し、**田村**（大住郡、平塚市）より高座郡**一之宮村**（寒川町）に達す。これ藤沢宿辺より大山及び中原宿などへの順路なり」とある。

高座郡図説（三巻二六四頁）に、

「一之宮村より大住郡田村へ渡す。故に**田村の渡し**と呼ぶ〈藤沢宿より大山への通路、および中原道へ出る順路なり〉」とある。

大住郡**田村**（二巻三四五頁）に、

「渡船場　相模川にあり、大山道の係る所なり。当村及び高座郡一之宮村、田端（寒川町）三村の持ち〈船四艘を置き往来に便す〉。渡頭より雨降、一子などの山々及び富岳を眺望し、最も佳景なり。」とある。

街道については同巻三四四頁に、

「大山、八王子の二道〈幅各二間〉係る。**大山道**は一之宮村へ一里、郡内伊勢原村へ二里、八王子道は淘綾郡大磯宿へ二里九町、愛甲郡厚木村へ二里」とある。

高座郡**一之宮村**（三巻二九六頁）に、

「相模川　渡船場あり、**田村の渡し**という。〈大住郡田村及び当村、田端村三村の持ち」、「大山道、中原道の二條あり、村西にて

合して一路となれり、共に田村に達す〈**大山道**、藤沢宿へ三里、**中原道**、用田村へ一里、西方は共に田村へ一里〉」とある。

③戸田の渡し

大住郡図説（二巻三四一頁）に、

「**戸田の渡し**と呼び、**戸田村**（大住郡、厚木市）より高座郡**門沢橋村**（海老名市）に達す。程ヶ谷宿と戸塚宿の中間下柏尾村（しもかしおむら、横浜市）より大山への順路なり」とある。

高座郡図説（三巻二六四頁）に、

「門沢橋村より大住郡戸田村へ渡す。**戸田の渡し**と唱う〈東海道程ヶ谷宿と戸塚宿の中間下柏尾村より**大山への往還**なり〉」とある。

大住郡**戸田村**（三巻七頁）に、

「渡船場、相模川にあり。大山道の係るところなり、**戸田の渡し**と呼ぶ〈渡幅一町ばかり〉。当村及び対岸、高座郡門沢橋村二村にて進退す」とある。

高座郡**門沢橋村**（三巻三三四頁）に、

「渡船場、相模川に在り、**戸田の渡し**と唱う。**大山道**の係るところなり。船二艘を置き対岸戸田村と当村の持ち」とある。

④岡田の渡し

大住郡図説（二巻三四一頁）に、

「**岡田渡し**と唱う、**岡田村**（厚木市）より高座郡**社家村**（海老名市）へ達す〈岡田村持ち〉」とある。

大住郡**岡田村**の項（第三巻三頁）に、

「渡船場　相模川にあり、**藤沢道**のかかる所にて対岸高座郡社家村に渡る。当村の持ちにて渡船二艘をおき往来を便す〈相伝う、天正年中（一五七三～九二）、東照宮、高座郡用田村伊藤孫右衛門宅へ入御のとき、当所に橋を渡せしことあり。それより年々春冬の二季は橋を架して往来すという。

街道については「**矢倉沢道**〈幅二間〉、**藤沢道**〈幅九尺〉の二條かかれり。」（同頁）とある。

高座郡**社家村**（三巻三三三頁）に、

「**八王子道**南北に通ず〈幅九尺〉。相模川、西界をながる〈幅百間、河原幅五町に至る〉。堤あり〈高さ五尺〉」とあるが渡船場の記事はない。

⑤厚木の渡し

愛甲郡図説（三巻一六七頁）に、

「**厚木の渡し**という。同村（厚木村、厚木市）にあり。**矢倉沢路**に当たれり」とある。

高座郡図説（三巻二六四頁）に、

「**河原口村**（海老名市）より愛甲郡**厚木村**への渡しなり〈**矢倉沢往還**〉」とある。

大住郡**厚木村**（三巻一七四頁）に、

「渡船場、相模川にあり。矢倉沢往還及び藤沢道に当たれり。船五艘〈内馬船一〉を置く。仲冬より明年暮春に至るの間は土橋を設く〈長さ五、六十間〉。この渡津は村民、孫右衛門及び対岸高座郡河原口、中新田（ともに海老名市）の両村にて進退す〈渡銭のごときは中分してその半ばを孫右衛門所務し、半ばは対岸、両村にて配分するを例とす〉。当村に渡守船頭屋敷と号し、除地〈一畝（九九平方メートル）〉あり。こは孫右衛門持ちにして、今、その

宅に併入す」とある。

三巻一七四頁には「**渡船場図**」が掲げてある。

旧家孫右衛門については三巻一七七頁に、

「家系によるに、その祖、溝呂木式部大輔氏重は―略―、九郎右衛門良勝に至り、東照宮中原御殿〈大住郡（平塚市）〉よりこの辺御放鷹のときはたびたびこの宅に立ち寄らせ給い、お茶など奉つれり。よって宅地にご休憩の御仮屋を設け置く。後年、破壊せしにより廃して跡に塚を築き、その上に東照宮を勧請し奉る。その棟札に元和八年（一六二二）とあり。近頃御宮の地を移し新たに造立し奉り、元の御棟札を納め、かつ御相殿に金毘羅を勧請す」とあり、その棟札と所蔵する茶臼の図が載っている。

高座郡**河原口村**（三巻三二九頁～）に、

「渡船場、相模川にあり。**矢倉沢往還**の係るところ、対岸は厚木村（愛甲郡、厚木市）なり。当村、中新田三村の持ち船五艘を置きて往来に便す」とある。

⑥磯部の渡し（高座郡**磯部村**と愛甲郡**猿ヶ島村**の間）

この渡し場は高座郡図説（三巻二六四頁）にも愛甲郡図説（三巻一五七頁）にも載っていない。

磯部村の渡し場は三巻三四五頁に、

「相模川、西界を流る〈幅十間〉。**渡船場**あり。**矢倉沢道**の係るところなり〈対岸、猿島村（厚木市）にて進退す〉」とある。

愛甲郡**猿ヶ島村**は三巻一九九頁に掲載されているが、その中に磯部村との渡しの記載は無く、「相模川、私し（ママ）に渡船を設けて耕作に便す」（三巻一九九頁）とあるのみである。公的な渡し場ではなかったのかもしれない。「磯部の渡し」の名称も『風土記稿』にはない。

⑦当麻の渡し

愛甲郡図説（三巻一六七頁）に、

「**八王子道**にあり。**上依知村**（厚木市）より高座郡**当麻村**（相模原市）に達す」とある。

高座郡図説（三巻二六四頁）に、

「当麻村（相模原市）より愛甲郡上依知村（厚木市）へ渡す〈古は武州入間郡河越（川越市）辺より小田原への往還、この渡し二係りしが、順路替わり、今は近郷より厚木村辺への往還とな る〉」とある。

高座郡**当麻村**（相模原市）の項（三巻三六一頁）に、

「渡津、相模川にあり〈対岸愛甲郡上依知村（厚木市）にて進退す〉。大住郡須賀村民所蔵。天正の頃（一五七三～九二）、北条氏より出せし文書にこの渡津の事見ゆ〈曰く、**当麻の渡瀬**打ち越えらるべきの間、須賀の船十艘当麻の船庭へ廻し、お通りの一日、奉公致すべしと云々、三月二十七日須賀小代官船持中、山角紀伊守之を奉るとあり」とある。文中の北条氏文書のことは、須賀村の項（二巻三五七頁）にも載っている。

往還については三六〇頁に、

「往還、村の南北に係る〈東海道**平塚より武州八王子に達する道**なり〉この地駅郵にて人馬を逓送す〈北方橋本村へ二里八町、南方愛甲郡厚木村へ二里二十八町、座間宿村へ一里〉古は当麻宿と唱え、旅亭櫛比（しっぴ）して繁富の地なり」とある。

愛甲郡**上依知村**（三巻一九三頁）に、

「渡津、**八王子道**の係るところ、相模川にあり。対岸高座郡当麻村に通ず。舟二艘を置けり。当村にて進退す」とある。

一九二頁に「相模川辺眺望図」がある。

⑧田名の渡し

愛甲郡図説（二巻一六七頁）に、

「**田名の渡し**という。これも**八王子道**なり。**角田村**（すみだむら、愛甲郡、愛川町）より高座郡**田名村**（相模原市）に通ず」とある。なお、高座郡図説（三巻二六四頁）には記載がない。

高座郡**田名村**（三巻三六七頁）に、

「相模川、西南の郡界（高座郡と愛甲郡の郡界）を流る〈対岸愛甲郡角田村に達する渡津あり〉」とある。

愛甲郡**角田村**（三巻二二九頁）に、

「渡船場、相模川にあり〈幅三十間ばかり〉。**武州八王子路**の係るところなり。船二艘を置く。高座郡田名村と組合持ち」とある。

⑨小倉(おぐら)の渡し

津久井郡図説（五巻三三六頁）に、

「**上川尻村**（相模原市）より**小倉村**（相模原市）へ渡す。故に**小倉の渡し**と呼べり。**武州八王子より縣内へ往来**するものこの路にかかれり。またこの所より東方、水路四里、舟行して厚木に至る。それより当国大山および小田原へ往来なり。

上川尻村（五巻四〇五頁）に、

「渡船場あり。明王坂下より小倉村に渡す。これを**小倉の渡し**と呼ぶ。即ち小倉村持ちなり」とある。

小倉村（五巻四〇七頁）に、

「相模川、渡船場あり、上川尻村に達す。これを**小倉の渡し**と呼ぶ。すなわち小倉村の持ちなり。案ずるに相模川の渡津多しといえども、小倉の渡しの如きは少なし。いと打ち開けたる場所にて、北岸は明王阪（ママ）及び明王瀧の佳境あり。南岸には小倉の里、小倉山の地形を望み爾（しか）して中流の一水、渺々として素練（それん、絹のこと）を牽（ひ）くが如く、数十里の間に緜遽（？）たり。岸に繋げる舟も渡舟のほか、或いは通船〈厚木及び須賀浦に達す〉、あるいは材木筏などここかしこ往来に漂漾（ひょうよう、漂う）せり。河岸場、相模川の南岸にあり。通船十二艘を繋ぐ。大住郡須賀浦まで通う。水路八里」とある。

⑩荒川の渡し

津久井郡図説（五巻三三六頁）に、

「相模川の渡しにて、**太井村**（相模原市）より**中沢村**（相模原市）へ渡す。是を**荒川の渡し**と呼ぶ。**甲州道中**吉野宿（相模原市）より当国厚木へかかり、小田原への往来なり」とある。

太井村（相模原市）の項（五巻三九九頁）に、

「村内一条の路係れり。―略―村内を経ること十町ばかり〈道幅二間ほど〉。これは**津久井街道**にて甲州への通路なり」とあり、四〇〇頁に、

「渡船場一所。荒川より中沢村に達す。是を**荒川の渡し**と呼ぶ〈この渡船、当村及び中沢村の持ちなり。冬より春までの間は土橋を架す。長さ六十間、幅九尺。この橋の用具は根小屋村、長竹村、青山村、鳥屋村、青野原村、青根村、中野村、三ケ木村、寸沢嵐村、若柳村、三井村、又野村、上・下川尻村、十四ヶ村より

出せり〉。津久井街道にして甲州への通路なり。この渡船場に通船二艘あり。当国須賀浦に達す〈当村より須賀浦まで水路八里半〉。」とある。

続けて**荒川番所**の記載がある。「五分一運上（相模川を下る諸商品の公定値段の五分の一にあたる額の税―平塚市博物館のＨＰより）取り立ての番所なり〈六畝二十一歩の地を除す〉。相模川に臨みて立てり。およそ材木炭薪船筏ともに五分一の貢賦をこのところにて収む。御代官手代一人、下役二人ここに居てその事を掌る。」とある。

中沢村（相模原市）の項（五巻四〇三頁）で相模川の割り注に、

「渡船場あり、**荒川の渡し**という。これは太井村、当村の持ちなり。これ、また太井村の条下に弁ぜり」とある

⑪勝瀬の渡し（丹田前渡し）

津久井郡図説（五巻三三六頁）に、

「**日連村**（ひづれむら。相模原市）**勝瀬**より**与瀬宿**（相模原市）へ渡す。故に**勝瀬の渡し**と呼ぶ〈以上載するところの**丹田前渡し**と**勝瀬の渡し**を、すべて二瀬渡しという。凡そこの二津（しつ、渡しのこと）間、水流屈曲すれば、舟渡しして経るところの路程はなはだ近し。与瀬宿より吉野宿に至る陸路は、北方、山に添いて、迂回にして陸路最も遠し。土人、水陸の行道曲直遠近のちがいあるをもって、弓と弦とに比すれども、中々に弓と弦よりも甚だし。これ故に甲州へ往来の徒、陸行するもの多くは、是の二津を越えて捷径（しょうけい、ちかみち）便利とす。案ずるにこの二津、その実は本道の渡しというにはあらねども、往来するもの多くは此の渡しにかかれり。最も人の知るところなれば姑（しばら）くここに載す〉。」とある。

日連村勝瀬（相模原市緑区）の項（五巻三六七頁）に、

「相模川、渡船場二所。一つは**勝瀬の渡し**と呼ぶ。与瀬宿に渡す。その一つは**丹田前渡し**と呼ぶ。吉野宿に渡す〈勝瀬より西五町ばかり丹前の渡しあり。彼とこれと二瀬越と呼ぶ。**甲州街道**の捷径、間道なり。〉」とある。

与瀬村（相模原市）の項（五巻三四五頁）に、渡し場の記載はない。

⑫沼本の渡し（落合の渡し　道志川にかかる）

津久井郡図説（五巻三三六頁）に、道志川にかかる渡しの記事が次のようにある。

「道志川の渡しにて**三ケ木村**（みかげむら、相模原市）より**寸沢嵐村**（すわらしむら、相模原市）へ渡す。これを**沼本の渡し**と呼び、前に同じく吉野宿より厚木にかかり小田原への往来なり」

三ケ木村（五巻三八六頁）に、

「道志川、村の西界を流る―略―。渡船場〈津久井街道西行して甲州に至る〉あり。**落合の渡し**と呼ぶ〈あるいは**沼本の渡し**という〉。寸沢嵐村に渡す。当村および寸沢嵐村の持ち」とある。

寸沢嵐村（五巻三四三頁）に、

「渡船場一所〈道志川落合にて渡す。当国厚木通り吉野宿へかかり、甲州への往来なり。冬より春の間は仮橋にて渡す。長二十間、幅五、六尺〉」とある。

農民渡しについて

上記の渡し場が公的な渡し場だったようで、このほかに、農民が耕作地に通うための村の私的な渡し場が次のように記載されている。

大住郡図説（二巻三四一頁）に、大住郡内の四ヶ所の渡し場（①馬入、②田村、③戸田、④岡田の渡し）を記した後、「この余り、農民耕作の便に設けし渡し二所（四ノ宮村、大神村（平塚市）〉同じ川（相模川）にあり」とあるが、どこへ渡したかの対岸の村名はない。

高座郡図説（三巻二六四頁）に、

「相模川の内、農民耕作の便利に依って設くる渡し数所あれどここに略す。正保、元禄の国図に載るところ、前の四所（②田村、③戸田、⑤厚木、⑦当麻の渡し場）のほか、相模川に二所あり。また目穿川、千之川、境川などに歩渡り三所載せたり」とある。

津久井郡図説の小倉の渡しの項（五巻三三六頁）に、

「この外（⑨小倉、⑩荒川、⑪勝瀬、⑫道志川の渡し）農民料作の便利によりて設くる渡し数所あれどもここに略せり」とある。

また、⑥磯部の渡しのところに記したが、この渡し場の『風土記稿』の記載は簡略で、かつ猿ヶ島村の項に「相模川、私（ママ）に渡船を設けて耕作に便す」（三巻一九九頁）とあるので、農民渡しが元になっていたのかも知れない。

街道について

渡し場にかかる街道を、『神奈川県の地名』（平凡社刊日本歴史地名大系一四）から引用して簡単に紹介しておく。

大山道……各地から大山へ向かう道は多いが、東海道から分かれる柏尾通り大山道（戸田の渡し）と田村通り大山道（田村の渡し）が多く使われた。また、江戸からは矢倉沢往還も使われた。他に、小田原方面からの六本松通り大山道と羽根尾通り大山道、二宮（二宮町）で東海道から分かれる波多野道があった。北関東・甲州からの道、府中からの道、八王子からの道などもあり、船を利用して神奈川宿、三崎（三浦市）、須賀（平塚市）へ着き、後は陸路を使うことも行われていた。

中原道……江戸を発し、丸子渡しで多摩川を越え、用田（藤沢市）を通り田村の渡しで相模川を越え中原宿（平塚市）へ至る。

矢倉沢往還……江戸の三軒茶屋（世田谷区）から厚木（厚木市）、足柄峠と過ぎ駿河に至る道で、富士山登拝者たちも使った。青山通り、厚木街道、大山道とも呼ばれた。

津久井道……津久井からの物資の輸送は主に相模川が使われたが、人の通行は登戸（川崎市）から橋本（相模原市）、津久井に通じる道が使われた。津久井では三ケ木村（相模原市）から青野原（同市）を通り甲斐国谷村（やむら・都留市）に至る道と、三ケ木村から甲州道の吉野宿（相模原市）に至る道があった。

甲州道……江戸を基点として甲州を通り下諏訪宿（下諏訪町）で中山道と合流する五街道の一つ。甲州街道ともいう。相模国内の宿駅は小原、与瀬、吉野、関野（相模原市）の四宿である。

今年九月二十八日（土）、茅ヶ崎郷土会の二九五回史跡文化財めぐりで戸田の渡し跡、海老名市門沢橋、厚木市戸田を訪ねます。参加希望の方は本誌二七頁の「これからの行事予定」をご覧下さい。

特集　第二弾　私のふるさと

今年、五月一日に発行した一四五号に続き特集第二弾です。原稿が到着した順に掲載しました。

茅ヶ崎市は他から移住してきた人が多い。郷土会の会員も然りです。「今は茅ヶ崎に住んでいるが、ふるさとの野山田畑は荒れていないだろうか。人口は減っていないだろうか」と、思いはいろいろあることでしょう。また、茅ヶ崎がふるさとという方もおられましょう。心にふと浮かぶ子どもの頃の思い出など、ふるさとの話を送って下さい。写真を付けていただけると、より親しみやすくなります。（編集子）

静岡県駿東郡片濱村大諏訪

羽切信夫

ふるさとは静岡県駿東郡片濱村大諏訪（現　沼津市大諏訪）です。

私は昭和三年（一九二八）十一月十一日、片濱村大諏訪の片田舎の半農半漁の羽切家の、男兄弟五人の四番目に生まれた。

片濱村は東西約六、南北は約一・五キロメートルで、海抜五㍍の平坦な小さな農漁業の村であった。昭和十九年（一九四四）四月に沼津市に合併された。沼津市は大正十二年（一九二三）九月一日、市制を施行した。現在の面積は一八七平方㍍、人口は約一九万人で、伊豆半島の一部も市域となっている。

沼津市に合併される前の片濱村の位置は、静岡県の東部で、東は沼津市、西は原町（現　沼津市）、南は駿河湾、北は愛鷹村（あしたかむら　現　沼津市）だった。愛鷹村には標高一一八八㍍の愛鷹山があって村の名はこの山にちなむものだった。その北には霊峰富士山がそびえている。

駿河湾は桜エビやタカアシガニなどが有名で、海岸には沼津市千本浜から富士市の田子の浦まで約一五キロメートルわたってすばらしい松林が続いている。この海岸も、南海トラフ大地震が予想されるために、多くの市民が反対したが、国と静岡県の強行により防潮堤が建設されて、そのすばらしい景観は台無しになってしまった。

村内は東海道（現　国道一号）と国鉄東海道本線（現　ＪＲ東海）が走っている。村内には停車場がなかったが、国鉄が民営化されてから片浜駅が今沢地区に設置された。

戦争中はこの松林の中には高射砲陣地が構築された。関東各地を空襲するために、富士山を目指して飛来した米軍のＢ二九を射撃したが、一万㍍の高空を飛行するためにその効果は薄かった。

沼津市も、昭和二十年（一九四五）七月十六日の夜半にB二九の焼夷弾攻撃を受けて市内の大半が焼け野原となった。しかし私のふるさと片濱村は少しの被害だけであった。

村は、戸数約一二〇〇戸、人口六千人で、小学校は片濱村尋常高等小学校一校のみで、小学一年生から六年生と、高等科の一年生、二年生の八学年だった。私はこの小学校に昭和十年（一九三五）四月に入学した。同級生は男女合わせて三クラス一八六人だった。

父は田畑約一町歩を地主から借りて、稲や野菜を栽培するかたわら小船を所有して、駿河湾で地引き網をひいてイワシやアジをとり、魚市場に出荷して生活していた。しかし私が小学校四年生、満一〇歳のときに病死し、生活はさらに厳しくなって、旧制中学校や商業学校にも受験できずに、片濱村尋常高等小学校の高等科に進んだ。

当時の沼津地方は桃の生産が盛んで桃里（ももさと）という地名も残っているほどである（注1）。片浜小学校でも、校内に桃の畑があり、高等科の生徒がその管理をしており、収穫した桃は村内の八百屋に売って学校の収入になった。出荷した残りは子どもたちに配られた。家庭に持ち帰って食べていた。しかし昭和十六年（一九四一）十二月、太平洋戦争がはじまると、食料増産のために桃畑はサツマイモ畑に変わってしまった。

鉄道唱歌（大和田建樹作詞作曲）の一七番に

沼津の海に聞こえたる　里は牛臥（注2）我入道（注3）
春は花咲く桃のころ　夏はすずしき海のそば

とある。

当時、農繁期には小学校は一〇日間くらい休校したので、子どもたちは田植えなどの手伝いをした。私も、田植え前の田んぼの代掻き（しろかき）のときに牛の鼻面（はなづら）取りをやらされた。冬は麦踏みなども寒風の中で行ったものである。

現在の沼津市内の史跡等を紹介しておこう。

沼津御用邸記念公園

明治二十六年（一八九三）、当時皇太子だった大正天皇の静養別御殿として造営されたが、付近の魚の干し物業者による環境が悪化したので、昭和四十四年（一九六九）、静岡県下田市須崎に移転した。跡地は沼津市に無償で貸与され、沼津御用邸記念公園として生まれ変わった。

千本浜公園

公園内に千本の松林があり、昔から詩、歌や紀行文に記されている。若山牧水記念館、若山牧水碑、井上靖文学碑等がある。

千本松原

狩野川河口から富士市田子の浦まで約一五キロメートルの海岸に沿ってすばらしい松林が続いている。万葉集に歌われている。

田子の浦ゆ　うち出てみれば　真白にぞ
不尽の高嶺に　雪は降りける（山部赤人）

若山牧水記念館

若山牧水が愛した千本松原の一角に、昭和六十二年（一九八七）に建設された。次の歌碑がある。

幾山川こえさりゆかば寂しさの
はてなむ国ぞ　けふも旅ゆく

我入道の渡し

ひと昔まえには全国の河川で数多くあった渡し船が、平成の時代に復活した。我入道の渡し船はかつて地元住民の生活の足とし

て利用されてきたが、いつの間にか廃止された。このほど「潮の音プロムナード」の一環としてよみがえった。

江原素六の碑

江原素六は天保十三年（一八四二）に武蔵国多摩郡角筈村（現東京都新宿区）に生まれた。明治元年（一八六八）、沼津兵学校を計画、設立し、沼津に移住。愛鷹山の開発、沼津中学校の設立、衆議院議員としても活躍した。愛鷹山麓の少年自然の家に碑がある。茅ヶ崎市にも関係があり、大正七年（一九一八）七月、私立小学校「白十字林間学校」を市内の小和田浜（現 富士見町）に建設し、初代校長をつとめた。

芹沢光治良文学館・文学碑

芹沢光治良は沼津市名誉市民で、明治二十九年（一八九六）静岡県駿東郡楊原村（現 沼津市我入道）に生まれた作家である。生まれ故郷の我入道に文学館と文学碑がある。

沼津兵学校址碑

明治元年（一八六八）十二月、沼津の地に徳川家兵学校が開校し、翌二年、「沼津兵学校」と改められた。わずか三年で東京に移され廃校となった。市内の城岡神社境内に「沼津兵学校址碑」が建立されている。

沼津城本丸址

水野五万石の沼津城の遺構としては、わずかに市内の大手町中央公園内に石垣の一部と「沼津城本丸址碑」が残るのみである。

（注1）桃…戦前の沼津は桃の日本一の産地だった。地名に桃里（ももさと）や桃郷（とうごう）があったが、桃郷は「島郷（とうごう）」に改名され、桃里は残っている。

（注2）牛臥…「うしぶせ」と読む。狩野川の左岸の河口にある標高五〇㍍の山で、麓には沼津御用邸があった。

（注3）我入道…「がにゅうどう」と読む。狩野川左岸の河口にある漁村。芹沢光治良の生まれ故郷である。

（二〇一九年五月十五日記）

北海道音威子府村（おといねっぷむら）

私のルーツ　日本一人口の少ない村―北海道音威子府村を訪ねて―

日下景子

札幌から車で六時間半、稚内に行く途中の音威子府村を訪ねました。村名はアイヌ語で「濁りたる川」という意味で、村を流れる天塩川からきています。

ここは鉄道の街。明治時代の終わりから大正時代に、旭川から稚内まで鉄道が敷設され、その途中の音威子府に多くの人が移り住み、開拓が進んだのです。音威子府村には、ＪＲの駅が四つあり、筬島（おさしま）駅は廃止寸前のところ、村の人たちの力で駅舎が残りました。

その筬島駅のそばには、元小学校だった、木彫り職人のアイヌのビッキさんのアトリエがあり、全国から観光客が訪れています。また、唯一の長尾農園があり、広大な土地にアスパラガスや様々な野菜が植えられており、体験農園もできます。

人口は四九三世帯七七〇人（二〇一八年　町のＨＰ）。名産は、そば・羊羹・ラーメン・みそ・木彫り製品などで、スキー場・天塩川温泉・道の駅もあります。北海道おといねっぷ美術工芸高等学校も有名で、多くの素晴らしい木工製品が作られています。全国から学生が留学することでテレビでも取り上げられました。

町中は人の気配もなく、食堂はソバ屋はありましたが、開いていませんでした。

昔栄えたこの街も、一番古い咲来（さっくる）小学校も、今は地域の集会所のようになっていました。

かつては多くの開拓民で栄華を極めたこの村は、今は日本で一番小さいのですが、特徴を持って頑張って生き残っていました。

因みに、私の母がここで生まれ、育ちました。私のルーツでもあるところです。皆さんも機会があったら訪ねてください。星の綺麗ないいところです。

（神奈川県議会議員）

茅ヶ崎市円蔵

小川祐暉

幼少時代の思い出とは…。美化されているかと思うが、楽しくセピア色の風景があふれ出す。

舗装されていない砂利道での友達との戯れ、あちらこちらにあった、澄んでキラキラした田んぼの水にオタマジャクシやザリガニを捕った遊びの日常のひとこま…。「ふるさと」を考えると私は小さい頃を思い浮かべる。

私は昭和四十五年に茅ヶ崎市円蔵にうまれ、今に至るまで同じ所に住んでいます。大概は「ふるさと」と言うと、田舎での暮らしを指すのではないでしょうか。私は生まれてからずっと円蔵にいます。

私にとって「ふるさと」とは、茅ヶ崎を指し、住んでいる円蔵が「今」であり、故郷でもある。小さい頃から比べると、円蔵も開発が進み多くの住宅が建ち、町並みが変わりました。今視ると、この地の文化や伝統は変わらずに受け継がれていることを認識します。自身が成長するにつれ、その文化や伝統に触れる時間が増え、私自身「ふるさと」を思う気持ちに変化を覚え、また創り上げてこられた経過に共感致します。

生まれ育った他の思い出の継承がなされなければ、未来の子どもたちが「ふるさと」を感じられなくなる…。町の形は時代と共に変遷し便利にもなる。しかし、継がれていくおもいは変わらない！

茅ヶ崎にも地域ごとにいろいろな文化がある。その地の文化や歴史に大いに興味が湧くと共に、深く考えさせられております。今の子どもが、「ふるさと」ととらえるのは茅ヶ崎でしょうから、私は、未来に贈る「ふるさと茅ヶ崎」を今後も皆様と共に地域から支えていきたいと考えています。

あの懐かしい風景が私の思い出のように！

（茅ヶ崎市議会議員）

横浜から茅ヶ崎へ

長谷川由美

残念ながら、私は茅ヶ崎生まれではありません。育ったのは、横浜の新興住宅地。高度経済成長の後、昭和五十年代に拓かれた

丘陵地でした。

私が茅ヶ崎に移り住んでから、母が茅ヶ崎にいらっしゃる旧知の茶道の先生を訪ねることになりました。茅ヶ崎のお仲間に道順を訪ねると、「びっくりするような急坂があるから、そこを登って…」と説明されたそうです。

母は、先生のお宅に迷うことなく辿りつけましたが…はて？思い起こしても、どこにも「坂なんて無かった」と言うのです。

よくよく話を聞いたところ、横浜の洋光台という坂だらけのまちに住む母にとって、坂のうちに入らない「坂」が、茅ヶ崎南部の人にとっては「びっくりするような急坂」だったのです。（ちなみに、現場は、茅ヶ崎徳洲会病院近くのコンビニの横の坂です　笑）これを考えると、茅ヶ崎的表現では、我が実家は「崖のような坂（自動車のタイヤが滑らないように道路に丸い輪の刻まれている）」の上にあるようです。

さて、実家の周りは新興住宅地ですから、お祭りは少なく、小さな公園の盆踊りくらい。浜降祭に初めて加わらせていただいた時の衝撃は忘れられません。

「こんなにカッコいいお祭はない」と心底思いました。お神輿さんとの出会いは、茅ヶ崎崎市文化団体協議会創立五十周年記念の演劇総合舞台「海輝く」です。浜降祭の起源をモチーフとする舞台ということで、なんと！八大龍王神神輿保存会の本物のお神輿さんが舞台に来てくださったのです。びっくり仰天です。畏れ多いことと思い、出演者一同衣装を整え、寒川神社さんと、八大龍王神神輿保存会が神事のときにお世話になっている十間坂の第六天神社さんお参りしました。（現在、私は八大の会員です）

また、この五十周年記念舞台は、演劇の中に謡曲、洋舞、詩吟、シャンソン、合唱も入る大舞台でした。このように市民による文化芸術活動が連動して、力を発揮するまちを見たことがありません。その後、文化団体の一員として活動していくと、茅ヶ崎郷土会をはじめ、文化人クラブ（現在は休止中）ほか、錚々たる先輩方が築き上げた茅ヶ崎を掘り起こす、愛する活動があるではありませんか。知れば知るほど興味深く、そして茅ヶ崎のおおらかさ、創造性豊かな地域性が愛おしくなります。

私は、茅ヶ崎を自分の生き、死んでいく場所に決めました。生まれる地を選ぶことはできません。けれど、生きる地は選ぶことができます。茅ヶ崎に出会えたことは、この人生最大の幸運。僭越ながら、私の大切なふるさとは茅ヶ崎と言わせていただき、いつの日か、えぼし岩近くの海に還ろうと心に決めているのです。

（茅ヶ崎市議会議員）

風　自由投稿欄

令和元年　浜降り祭

前田照勝

昨日は浜降祭。暁の祭典として知られる神奈川県の民俗無形文化財に指定されている祭りである。前夜祭は雨のため中止になった。

二時に起床して二時半にはお宮に行く。今年の丁頭は四八歳になる息子の同級生一〇人である。前夜から寝ずの番をしている。(丁頭とは、柳島の独特の制度で、浜降祭全体を司る役割である。先輩方の積み重ねてきた伝統を忠実に守っている。マニュアルのノートがあるくらいだ。鈴の結び方などは年々工夫を重ね進化しているようだ)。

三時半の宮出しの時間を待つ。一回目の全員の記念写真を撮る。みな、凛々しいいい顔をしている。丁頭代表の道也君は少年野球当時から知っている人物だ。気力溢れるバッターボックス姿は今でも記憶の中にある。一日、このメンバーと共に過ごすことになる。

宮出しの時間は霧雨が降っていた。浜でも降ったり止んだりの繰り返しだった。足元は水たまりと泥沼の状態だった。いつもの場所で七時からの式典の写真を撮る。その後は、三九基もの神輿が浜を乱舞する。上下に揺れる神輿、神輿と共に観客が動いてい

く様は圧巻である。順番に神輿は浜を後にする。
海岸地区の厳島神社で昼食。(同じ地域にお宮が二つ存在するのは珍しい)。地域内の神酒所で何度も接待を受けながら宮入りを目指す。
時間はチェックしていなかったが、一六時を過ぎていたろうか。宮入り前の参道は高齢者グループのOBで担ぐことになっている。もちろん、高齢者だけではムリなので、屈強な若者が応援に入る。OBは毎年一〇人くらいは集まるのだが、今年だけは一番少ない人数だった。私の周りには四人しかいなかった。何とか一度だけ肩を入れることができた。しかも一番前の花棒だった。奇跡としか言いようがない。誘導役の三橋さんが入れてくれたのだ。ありがたいことだ。担ぎ手が若手に交代して、いよいよ宮入りである。
息子が丁頭とあって、カミさんも宮入りを見に来た。娘二人と孫たち七人も見守る。境内を何度か往復し、境内は興奮のるつぼと化す。神輿が無事に納まった。関係者が全員ホッとする瞬間だ。
記念すべき息子の丁頭の年度の浜降祭が終わった。感無量である。地域内に掲示されたポスター用の写真は昨年の浜降祭時に撮った自分の写真が採用された。これも名誉なことだと思う。この地に住んで五十一年目になる。すっかり根をおろし、首までつかっているという心境だ。浜降祭の途中で多くの人と挨拶を交わす。亡くなった父親(少年野球の指導者仲間)の娘姉妹と思い出話をして思わず泣かされた場面もあった。知人友人がいっぱい増えたことを実感した。
二〇一九年・令和元年の浜降祭が無事に終わった。めでたしめでたしである。

（二〇一九年七月十六日記す）

会の活動報告

史跡文化財めぐり

第二九三回

鎌倉の光明寺と付近の史跡を訪ねる

山本俊雄

令和元年四月十五日（月）　参加者一六名

今年度の史跡めぐり第一回は、鎌倉市材木座の光明寺と周辺の史跡・社寺をめぐりました。
今年度は一貫したテーマに沿っためぐりではなく、参加希望者の要望を生かそうとの趣旨から、光明寺は町田会員の提案によるものでした。三月二十四日から五月六日まで「光明寺寺宝展」と「山門楼上特別公開」が行われるので、実施日をこれに合わせ、光明寺の近くある寺社および和賀江島も訪ねることにしました。

また、県内の城跡をめぐりたいという私の提案から、材木座に隣接する逗子市小坪にある住吉城址もめぐりました。

当日は平野会長が都合で欠席となり、史跡めぐりの担当でありまた下見をした私と尾高会員の二人で案内することとなりました。配布資料の作成は会長を含め三人で行っていたので、いささかの不安が頭をよぎりましたが、それは杞憂でした。

天候にも恵まれたなか、予定通り茅ヶ崎駅を出発し、鎌倉駅集合組の西さんとも直ぐに会え、バスも順調、一〇時には光明寺前にいました。

①光明寺は浄土宗大本山で開山が然阿良忠、開基は北条経時。朝廷との関係が深く、山門に掲げられた「天照山」の扁額は後花園天皇の直筆と伝えられ、後土御門天皇からは関東総本山の称号を受け、勅願所に定められました。また、「十夜法要」も勅許され、以来現在まで念仏法要が盛大に行われています。

ここで副会長の源会員から挨拶があり、見学時間を一時間として、山門登楼組、本堂拝観組、宝物殿拝観組に別れましたが、ほとんどの人が本堂に向かいました。参拝後、本堂右手の三尊五祖の石庭、左手の小堀遠州作と伝わる記主庭園と見学しました。記主庭園の池の向こうの高台の中腹に大聖閣という建物があり、その扉の開いた二階の窓から、奥に祭られている阿弥陀様が光って見えました。一緒に眺めていたどこかのおばさんたち一行にこのことを教えてあげると、おばさんたちはありがたさに感極まった様子でした（言葉だけかも知れませんでしたが）。本堂からの続き廊下から宝物殿に入ることができました。宝物殿で、国宝「当麻曼荼羅縁起絵巻」の写しを見学した後、光明寺を後にしました。光明寺のすぐそばにある内藤家墓地の巨大な宝篋印塔は、寺

の後ろの天照山にある開山然阿良忠墓などがある展望デッキのそばから市立第一中学校横を下りつつ、上からの見学にとどめました。

続いて②和賀江島を見ながら、③六角ノ井に向かいました。鎮西八郎為朝が保元の乱に敗れ、腕の筋を切られ、伊豆大島に流された時、腕試しに大島から天照山をめがけて射た矢がこの井戸に落ちた、という伝説の井戸ですが、台風には勝てなくて、去年の嵐に敗れ、閉鎖していました。

続いて④住吉城址に向かいます。材木座海岸と逗子市小坪の間にまたがる山全体が城址と言われます。山中にある住吉神社の境内に、そのことを示す看板がありました。また、神社の横の崖にトンネル状の抜け穴があり、入ってみましたが、民有地とのことで抜けられませんでした。洞穴があると無視できないのか、中は真っ暗なのに、懐中電灯を持った人も持たない人も入っていました。住吉城は初め北条早雲が築き、後に三浦道寸（義同）が落とし、さらに早雲が永正九年（一五一二）に奪還したものです。後に、三浦道寸は、退いた三崎の新井城で滅びます。

住吉城を後にするとすでに昼となっていたので、城下の逗子マリーナのそばで昼食をとりました。和賀江島を右に見る開けた海岸べりなので、トンビがたくさん飛んでいました。下見の時に、食べ終わった後で良かったのですが、一瞬の間におにぎりの袋を持っていかれたのでした。手にはひものように引きちぎられたビニール袋だけが残っていました。今回は幸いにトンビも少なく、弁当を奪われる事故もありませんでした。

午後は駅に向かって帰るコースで光明寺を過ぎ、⑤補陀洛寺に向かいました。開山は文覚上人。源頼朝の祈願所として養和元年

光明寺の山門前で

（一一八一）に建てられました。下見のときに住職にお願いしてあったので、本堂内の仏像（本尊の十一面観音菩薩像や行基作の薬師如来像、日光・月光菩薩は運慶作、地蔵像は空海作と伝わっています）や、平氏の赤旗（壇ノ浦での平氏滅亡の際に平宗盛が持っていたと伝わる）を拝観できました。平家の赤旗も何回か見たはずなのに覚えていなかったのは、色が飛んであまり赤くなかったからではなかったかと思い出しました。

その後は⑥実相寺に寄りました。開山は日昭。曽我兄弟の仇の工藤祐経の屋敷跡と、また日照は母親が祐経の娘と言われます。

続いて⑦五所神社に寄りました。午前中に祭礼があったようでしたが、残念ながら終わっていました。石像が多く写真に残す人が多い神社でした。

最後は材木座の⑧来迎寺で、この寺の前身は、頼朝が三浦大介義明の菩提を弔うため、建久五年（一一九四）に建立した真言宗能蔵寺でしたが、開山の音阿が時宗に帰依し改宗したために寺名も来迎寺と変わりました。境内には義明の木像と五輪塔墓、裏手には三浦一族の墓があり、一同、参拝しました。本尊の阿弥陀三尊像は運慶作とされています。

以上で今回の史跡めぐりも終わり、鎌倉駅に向かいました。駅の近くで反省会を行ったのはいつもの通りでありました。

住吉城址に訪れたのは五、六年ぶりで、道順を忘れていたのですが、私が今参加している神奈川県立歴史博物館のボランティア解説員の後輩で、鎌倉在住の戸川さんに資料を頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。

（追記）

ここに記された第二九三回史跡めぐりは、茅ヶ崎郷土会のホームページにも掲載されています。ＵＲＬは（http://chikyodokai.wp.xdomain.jp/）、「茅ヶ崎郷土会」で検索すると開くことが出来ます。

―編集子―

第二九四回

神奈川県立歴史博物館と付近の博物館施設・中華街を訪ねる

山本俊雄

令和元年七月三日（水）　参加者一二名

史跡めぐり第二回は、横浜市中区にある横浜開港に関する諸施設を巡りました。

今年度は、参加希望者の要望を取り入れようという趣旨から、たまたま私が県立歴史博物館のボランティア展示解説をしていることと、中華街でたまには楽しく食事をしようとの意見がピタリと合った結果の企画でした。

当日は梅雨の晴れ間の天候に恵まれました。私はいつものように水曜班の朝礼に出ていますと、源会員から参加できない旨の連絡を頂いたのに続き、尾高会員から桜木町駅に着いた、これから一一名で向かうとの連絡を受け、正面玄関で迎えました。

展示室で解説する山本会員

県立歴史博物館は特別展の横浜浮世絵が終わり、常設展のみでしたが、古代から近現代までを一時間で見学し終えるのはやはり難しく、結果的には三〇分のオーバーとなりました。

本年度の史跡めぐりは、隔月の現地めぐりの間に、次の訪問地の事前勉強会を行なおうということから、六月にこの日のための説明をおえていたので、本番では時間を短縮できると思ったのです。事前勉強会では県歴史博から横浜税関までを説明したのですが、文章と言葉だけで伝えるのは難しく、博物館で現物を見ながらまた同じことを話したようで、余計な時間がかかってしまいました。一一時に終えるはずの予定が遅れ、慌てて次の②横浜開港記念会館に向かいました。ここでは、町会所と石川屋・岡倉天心の生家とステンドグラスを見て一〇分、③県庁本庁舎では正面玄関内の宝相華の飾りや屋上からの見晴らしは良く、ジャックやクイーンの塔を見ていますと、大桟橋には大型客船ダイヤモンドプリンセスがよく見えていました。

次の④横浜開港資料館では、企画展「カメラが撮らえた横浜」が行なわれていたのですが、時間に追われ、ペリー来航、日米和親条約の現場となった玉ぐすの木（タブノキ）を確認し、久保田会員が探していた水道で喉をうるおしていると、小学生の一団と先生らしい若い女性に出会いました。久保田さんが「ここを踏むと水道の水が出るのだ」と彼女たちに教えています。その後、その先生が伝えたのか大勢の小学生が並んでいました。時間がないので次の⑤横浜税関に向かいます。ジャックの塔の写真は県庁本庁舎の屋上から、皆さん充分に撮っていたようで、館内の江戸時代からの運上所の歴史や、現代の税関が押収し

日本で造船された大型客船　ダイヤモンドプリンセス

関帝廟の門前で

た偽物の見分けなどを見学しました。②の開港記念会館から⑤の横浜税関まで各々約一五分で終え、中華街に向かい、予定通り一時頃に到着しました。

店は尾高さんが予約していた「元祖シュウマイの店　順海閣」。六人ずつの丸テーブルに分かれ、美味しい料理によく冷えた生ビール、少し温かい紹興酒も美味しかったです。私が座ったテーブルには、酒の強い小山会員、杉山会員、前田会員、久保田会員、紹興酒にはざらめが一番合うのだとぐいぐいやっていた西会員とによって早くに一本空いてしまったので、追加を考えていますと、尾高さんが自分のテーブルから紹興酒を回してくれました。後日、平野会員、加藤さん、熊沢会員が「いつの間にか自分たちのテーブルから酒がなくなっていた」と言っていました。小川会員、長嶺さんは泰然自若と何も言われなかったのは幸いでした。いずれにしても愉しいひと時でした。その後、関帝廟を見学して帰路につきました。

事前勉強会に来られていた町田会員の参加がなかったのは残念でした。

今回訪れた横浜市中区は、行政官庁が集中する市の中心部ですが、江戸時代は砂州の上にある寒村でした。一方、この村の北方には東海道の神奈川宿がありました。港が、神奈川宿に設けられず、なぜ横浜村に設けられたのかについて、県立歴史博物館の「浜浮世絵展」に分かりやすい説明があったので、それを次に要約しておきます。

港は、日米修好通商条約により、安政六年（一八五九）に開港しました。今年は開港百五十周年です。

米・英・仏などが「港は神奈川宿に」と、そこにあるお寺に領事館を置いたのですが、江戸幕府は「東海道は危険であり、砂洲の上の横浜も神奈川である」として、何もなかった横浜村に建設をはじめました。道もない所に横浜道を造り、砂洲の内側（西側）を埋め立てて、海に向かってコの字に川を掘り、開港地を出島のように造ったのです。正に横浜は幕府が造った傑作です。浮世絵には、野毛の切通し（横浜道）から横浜を見てびっくり仰天する人が描かれています。初代英国公使オールコックは「魔法使いの杖の一振りで開港地ができた」と言ったそうです。日本大通りを境に、海に向かって右側に外国人居留地、左側に日本人町と分けて計画的に港町が造られていきました。

二〇一九年度　茅ヶ崎郷土会総会

五月二十四日（金）、一三時三〇分から市役所分庁舎五階のA・B会議室を借りて開催した。議長は羽切会員、書記は源会員がつとめた。二〇一八年度事業報告、決算報告、監査報告、続いて一九年度の事業計画案、予算案、役員改選を審議した。

事業報告では史跡めぐり（市内の別荘地めぐり）を六回（二八七～二九二回）、「郷土ちがさき」一四二～一四四号の発行、大岡越前祭に「越前守写真展」、市民文化祭に「史跡めぐり・鎌倉小田原両北条氏・中島村調査の写真展」、郷土歴史民俗勉強会一一回の開催、二三ヶ村調査の中島村一一回その他が報告された。

会計報告は、総収入三七万一七六六円（内会費収入は一五〇〇円×八六名）、総支出二一万一七八二円、次期繰越し一五万九八四円であり、坂井・小川両監事から適正に処理されている旨の報告があった。

事業計画では、例年どおりに総会と、月一回の理事会の開催、越前守写真展、文化祭での写真展、第四七回郷土芸能大会開催支援、史跡めぐりを五回、勉強会を数回、中島村の歴史のまとめ、会報「郷土ちがさき」三回発行が発表された。

予算案は総収入を三一万九四八四円と見て各項目の予算が組まれていた。会員数は減少傾向にあることから退会人数を三名と推測してあった。

各議案の審議は滞りなく進み、満場一致で承認された。

来賓は竹内清教育長をはじめ、中山早惠子教育推進部長、石井亨社会教育課長、建見聡社会教育課担当主査、関山知子文化生涯学習課長の来席を頂き、それぞれお言葉を頂いた。また、河野太郎代議士からは代理の出席があった。

会員はくさか景子、永田てるじ、桝晴太郎各県議会議員、青木ひろし、小川裕暉、長谷川由美各市議会議員（五十音順）をはじめ、三〇名の出席があった。

役員及び協力員は次ページの表のとおりに決まった。

（編集子）

役員名	氏　名	担　当	
会　長	平野文明	総括・会報・ホームページ・旧23ヶ村調査	再任
副会長	羽切信夫	大岡越前祭	再任
同上	杉山　全	郷土芸能	新任
監　事	坂井源一		再任
同上	小川正恭	郷土歴史民俗勉強会	再任
事務局長	熊澤克躬	総務	新任
理　事	尾坂郭子	茅ヶ崎かるた	再任
同上	尾高忠昭	会計・史跡めぐり	新任
同上	久保田洋治	茅ヶ崎かるた	再任
同上	源　邦章	企画	再任
同上	森　早苗	郷土歴史民俗勉強会・茅ヶ崎かるた	再任
同上	山本俊雄	史跡めぐり・郷土歴史民俗勉強会	再任
相談役	青木昭三		再任

茅ヶ崎郷土会協力員		
・片田明男（再任）	・小山章治（新任）	・西輝幸（再任）
・原俊一（再任）	・誉田雅彦（新任）	・前田照勝（再任）

転居のお知ら

源邦章

拝啓

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度　私どもは下記へ転居致しましたのでお知らせ致します。場所は千葉県柏市ですがＪＲ常磐線我孫子駅よりバスで一五分の所にあります新興住宅地の一画です。茅ヶ崎在住時は大変お世話になり有難うございました。近くにおいでの節はどうぞお立ち寄りください。まずはご通知申し上げます。　敬具

〒二七〇―一四四七

千葉県柏市手賀の杜三―　（個人情報のため、部分表記）

「追伸」

八月四日で柏市に転居して二ヵ月経ちました。それから三か月目に入っております。最初の一か月間は引っ越し荷物の整理や公的機関への届け出等であっというまに過ぎてしまいました。二か月目から近所の寺社めぐり・図書館・市役所を訪ね、少しは当地のことが分ってきました。最初は、現在自宅があります柏市の内、旧沼南町について勉強しています。

一か月で分かったことを簡単に記しておきます。

1．石仏・石碑等について

（1）庚申塔の数が沼南町地区だけで三一二基あります。①百庚申と言って庚申塔が百基並んでいるのは壮観です。②青面金剛の刻像塔に脇侍があるのは珍しい。③文字塔は茅ヶ崎では「庚申塔」だけでしたが、当地では「青面金剛尊」、「青面金剛王」が八割位あります。

（2）月待・日待塔には「二十三夜塔」より「十九夜塔」の方が多い。

（3）廻国塔は当地にもありますが、茅ヶ崎はほとんどが文字塔でしたが、当地には六部を刻んだ刻像塔がありました。

2．坪井正五郎の碑

明治三三年建碑の「坪井正五郎の碑」が当地にありますが、これには、その前年に坪井正五郎が当地の有力者、染谷大太郎を訪ね、当地の古墳・貝塚等を見学したことが書かれてあります。染谷はこの縁で東京大学に文化財を寄贈しています。

3．エコミュージアムについて

沼南町が柏市と合併する前に、当地にはエコミュージアムについて小学校を通じて実践している人がいました。その先生の名は金長信明氏です。『沼南町史研究』三～六巻に詳しくエコミュージアムについての説明や小学校での実践報告が記載されています。

【これからの行事予定】

○郷土歴史民俗勉強会

9月17日（火）　午前10時から　うみかぜテラス1F―1

鎌倉材木座　光明寺の文化財　（平野文明会員）

4月15日に行った光明寺参拝の様子を画像を使ってお話しします。

○第二九五回史跡文化財巡り

9月28日（土）

戸田の渡し場を訪ねる

（戸田の渡し場跡・海老名市門沢橋・厚木市戸田）

午前8時50分、茅ヶ崎駅改札前に集合して相模線で門沢駅下車。旧門沢橋村内の社寺などを見学し、渡し場跡を訪ね、戸沢橋を渡って海老名市旧戸田村の見学を予定しています。

○市民文化祭で写真展

「ちがさき風景　各地・各所」

「相模川河口近くの野鳥たち」

10月7日（月）～11日（金）

市役所一階　市民ふれあいプラザ

「郷土ちがさき」145号　正誤表

一頁　チョウガシラの原稿執筆者名　山口全　→　杉山全

九頁　茅ヶ崎市博物館学芸員　→　茅ヶ崎市文化資料館学芸員

訂正してお詫びいたします。HP掲載版は訂正済みです。（編集子）

【編集後記】

今年の夏はなんと暑かったことか。遙かに聞く欧州大陸では温室効果ガス対策で飛行機から鉄道への社会運動が起きているらしい。我が国ではどうだろうか。近くに聞く各郷土会々員の家庭では、奥方と表方とのクーラーのリモコン取り合いバトルが起きていたらしい。だいたい奥方は寒がりで表方は暑がりだが世の中には逆もある。地球上に、安心して暮らせる場所がなくなりつつあるらしい。せめて家の中は安穏に保ちたい。世の表方諸氏に告げる。戦う前から勝ち負けは着いているのだ。言われるままにリモコンを渡そう。無駄な抵抗はやめよう。

会のHPは「茅ヶ崎郷土会」を検索することで見ることができます。URLは http://chikyodokai.wp.xdomain.jp/ です。

ご意見ご感想を待っております。どうぞ平野（090―8173―8845）まで。

2019年度　茅ヶ崎郷土会年間事業予定

（網掛けは終了した事業）

2019/8/24印刷

		理事会 総会	催し物	（公開事業①） 史跡めぐり	（公開事業②） 郷土歴史民俗勉強会 【会場　うみかぜテラス】	会場 収容人数	（公開事業③） 市内23ヶ村調査勉強会 【会場　うみかぜテラス】	会場 収容人数	郷土ちがさき 発行
2019 年	4月	理事会 04日 28日	—	293回 15日(月) （鎌倉市） 光明寺・和賀江島・住吉城・補陀落寺・五所神社等	16日（第3火）10:00～ 今年度史跡めぐり相談	1F-1(37人)	02日（第1火）13:30～　中島村原稿修正 16日（第3火）13:30～ 中島村原稿修正	1F-1(37人) 1F-1(37人)	—
	5月	理事会 総会 24日(金)	・コミュニティーホールA・B会議室 13:30~ （郷土芸能保存協会総会と同時）	—	—	BF-2(42人)	07日（第1火）13:30～　中島村原稿修正 21日（第3火）13:30～ 中島村原稿修正	1F-1(37人) BF-2(42人)	1日発行 （145号）
	6月	理事会 21日(金) サポセン	5月18・19(土・日) 大岡越前祭「越前守写真展」 ・市民文化会館C展示室・民俗資料館旧和田家 18日	—	18日（第3火）10:00～ 山本俊雄・尾高忠昭会員 県歴史博物館等・中華街探訪	1F-2（30人）	04日（第1火）13:30～ 中島村原稿修正 18日（第3火）13:30～ 中島村原稿修正	BF-2(42人) 1F-2（30人）	—
	7月	理事会 2日(火) テラス10~	—	294回 3日(水) （横浜市） 県立歴史博物館と中華街	—	—	02日（第1火）13:00~17:00～中島原稿修正 16日（第3火）13:30～ 中島村原稿修正	1F-1(37人) 1F-2(30人)	—
	8月	理事会 5日(月) 市役所	—	—	20日（第3火）10:00～ めぐり事前勉強会-資料を読む 相模川の渡し場	1F-1(37人)	06日（第1火）13:30~17:00　中島村原稿修正 20日（第3火）13:30～ 中島村原稿修正	1F-2(30人) 1F-1(37人)	—
	9月	理事会 6日(金) サポセン	—	295回 28日(土) 相模川の渡し場を訪ねる (海老名市)戸田の渡し他	17日（第3火）10:00～ 平野文明会員 鎌倉 光明寺の文化財	1F-1(37人)	03日（第1火）13:30~17:00 中島村原稿修正 17日（第3火）13:30～ 中島村原稿修正	1F-1(37人) 1F-1(37人)	1日発行 （146号）
	10月	理事会 11日(金) 市役所	市民文化祭「茅ヶ崎風景・柳島の野鳥」・7日（月）～11日（金）・市民ふれあいプラザ（市役所）	—	15日（第3火）10:00～ めぐり事前勉強会-資料を読む 相模のもののふ-海老名氏	1F-1(37人)	01日（第1火）9:00~17:00 下寺尾村 15日（第3火）13:30～ 下寺尾村	1F-1(37人) 1F-1(37人)	—
	11月	理事会 8日(金) 市役所	第47回郷土芸能大会 ・24日(日) ・市民文化会館	296回　16日（土） 相模のもののふ　海老名市に海老名氏を訪ねる	19日（第3火）10:00～ 講師　東 哲郎さん 江戸時代を学ぶための基礎知識	未定	05日（第1火）9;00~17:00 下寺尾村 19日（第3火）13:30～ 下寺尾村	未定 未定	—
	12月	理事会 2日(月) 市役所	—	—	17日（第3火）10:00～ めぐり事前勉強会-資料を読む 市内の史跡文化財（柳島～南湖）	未定	03日（第1火）9:00~17:00 下寺尾村 17日（第3火）13:30～ 下寺尾村	未定	—
2020 年	1月	理事会 未定(・)	—	297回　25日（土） 市内の史跡文化財 柳島～南湖を訪ねる	21日（第3火）10:00～ 講師　加藤幹雄さん （丸ごとの会）「テーマ 未定」	未定	07日（第1火）9:00~17:00 下寺尾村 21日（第3火）13:30～ 下寺尾村	未定 未定	1日発行 （147号）
	2月	理事会 未定(・)	—	—	18日（第3火）10:00～ 話題提供者　未定 「テーマ 未定」	未定	04日（第1火）9;00~17:00 下寺尾村 18日（第3火）13:30～ 下寺尾村	未定 未定	—
	3月	理事会 未定(・)	—	—	17日（第3火）10:00～ 話題提供者　未定 「テーマ 未定」	未定	03日（第1火）9;00~17:00 下寺尾村 17日（第3火）13:30～ 下寺尾村		—

★実施日・場所・テーマなどは変わることがあります。お問い合わせは 山本俊雄（09061742806） 尾高忠昭（09032410775） 平野文明（09081738845）
★公開事業①「史跡めぐり」 集合は午前　時　分、雨天のときは一週間後の同じ曜日・時刻に実施します。その日も荒天の場合は中止します。
★公開事業③「23ヶ村調査勉強会」の対象村・実施日時は変更することがあります。
★（公開事業①②）は、資料代等として会員200円、会員外は300円をご負担願います。また③も含め必要経費が生じた場合は会員・会員外を問わず臨時徴収することがあります。
★（公開事業②③）は、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会との共催です。
★交通費・食事・傷害等は各自対応してください。